

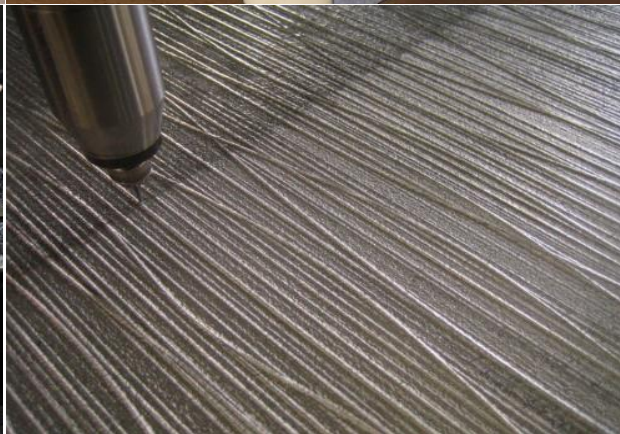
株式会社 三木製作所

2018年度環境活動レポート

(対象期間:2018年10月～2019年9月)



大阪の元気!ものづくり企業



作成日: 2019/10/17

環境方針

<環境理念>

株式会社三木製作所は建材関連の金型・エンボスロール製作技術を通し、顧客である建材メーカー・素材メーカーの環境型商品の開発をサポートすることにより地球環境保全に貢献すると共に、全社員が地球環境保全の重要性を認識し、事業活動において環境保全に積極的に取り組み、循環型社会の構築に邁進します。

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

①二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)

- ・電力使用量の削減
- ・自動車燃料使用量の削減

②廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)

- ・一般廃棄物、産業廃棄物の削減

③排水量の削減(水資源の保全)

- ・水道水の削減

④化学物質の適正な管理

⑤事務用品のグリーン購入

⑥省エネ型成型機・成型型の開発・販売促進

⑦社会貢献

- ・工場周辺の緑化活動・清掃活動の推進

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3. この環境方針を全従業員に周知・徹底します。
また環境教育を徹底することで、従業員の環境意識向上に努めます。

4. この環境方針および環境レポートはホームページ等を活用し、社外に公表します。

制定日：2012年6月29日

代表取締役社長 三木 繁親

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 三木製作所

代表取締役社長 三木 繁親

(2) 所在地

本 社 大阪市西淀川区大野 1-2-20

技術開発センター 大阪市西淀川区大野 1-7-28

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役 三木 繁親 TEL:06-6473-3414

担当者 取締役 三木 元親 TEL:06-6473-3414

(4) 事業内容

精密金型の製造・販売

主要製品: 建材金型・エンボスロール・デザインモデル

(5) 事業の規模

製品出荷額 93.2百万円 (2018年度)

主要製品生産量 エンボスロール56本 プレス型22面

	本社	技術開発センター
従業員	6名	1名
延べ床面積	455.64㎡	386.91㎡

(6) 事業年度 10月～9月

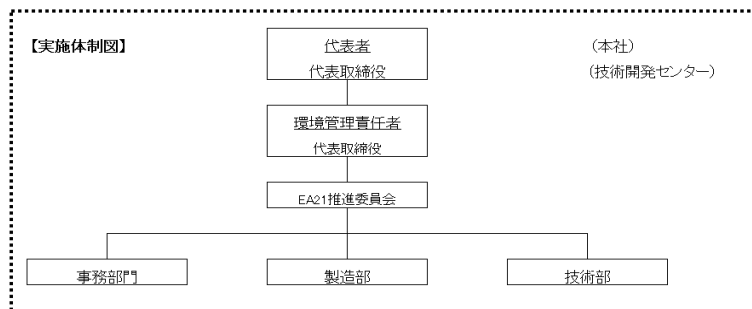
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 株式会社 三木製作所

対象事業所: 本社、技術開発センター

活動: 精密金型の製造・販売

(7) 実施体制図



□環境負荷の推移

項目		2010年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	104361	101006	84017	102541	140807	91053
一般廃棄物排出量	kg	3848	2479	2472	2019	2082	3005
水使用量	m ³	84	97	83	127	112	78

注1: 二酸化炭素総排出量に都市ガスが含まれております。

注2: 産業廃棄物(段ボール・缶・金属くず等)は資源ごみとして再利用しております。

□環境目標及びその実績

項目		年度	基準年度 (2010年度)	2018年度 上段: 通年		2019年度	2020年度
			(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力使用量の二酸化炭素排出量 削減	kg-CO2		96,232	90,458	85,383	89,496	88,533
	出荷高(万円)		9,501		9,319		
	基準年度比			94%	89%	93%	92%
	原単位(kg/万円)		10.1	9.5	9.2	9.4	9.3
ガソリンの二酸化炭素排出量削減	kg-CO2		8,096	7,610	5,637	7,529	7,448
	基準年比			94%	70%	93%	92%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	104,328	98,068	91,020	97,025	95,982
基準年度比			100%	94%	87%	94%	93%
一般廃棄物の削減	kg		3,848	3,617	3,005	3,579	3,540
	基準年比			94%	78%	93%	92%
溶剤の適正管理 (チェックリスト法)	回		12	12	12	12	12
	基準年比			100%	100%	100%	100%
水使用量の削減	m ³		84	79	78	78	77
	基準年比			94%	93%	93%	92%
グリーン購入	品目数		6	12	11	13	14
	基準年比			200%	183%	217%	233%
製品への環境配慮	型数		70	76	55	77	78
	基準年比			109%	79%	110%	111%

※平成25年度電気事業者別二酸化炭素排出係数: 関西電力株式会社 0.522kg-CO2/kWh

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

○達成できた △一部未達成 ×未達成

取り組み計画	目標達成率	次年度目標値	評価(結果と次年度の取組内容)
電力使用量による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	106%	93%	基準年度比、売上は98%、原単位換算で10%減
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	継続	今期は売り上げが減少し、比例して電力消費量が減少した。売り上げの増減以外のところでも無駄が無いように活動を推進する。
・空気圧縮機のエア圧力設定変更	○	継続	
・水銀灯蛍光灯をLEDに切り替え	○	継続	
・クールビズ・ウオームビズの推進	○	継続	
・窓・FRP壁面の断熱工事を継続	○	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	135%	93%	基準年度比原単位換算で29%減
・自社便での配達から混載便での出荷へ変更	○	継続	今期も継続して混載便での出荷に取り組んだため、自社便の稼働が減少した。来期に向けて省エネ車を1台更新し、自社便使用頻度の減少効果と合わせて更なる削減を目指す。
・公共交通機関により社用車の使用削減	○	継続	
・アイドリングストップ車導入	○	継続	
・省エネ車の導入 2台目	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	120%	93%	基準年度比22%の削減
・材料取りの工夫で廃棄物を削減	○	継続	作業標準で基準年度の22%の削減成果。無駄な廃棄物を減らす努力を継続して行なう。樹脂注型のレベルUPを継続する
・資源ごみのリサイクル化	○	継続	
・注型レベル精度UPによる廃棄物の削減	○	継続	
溶剤の適正管理			
数値目標	100%	12回	
・溶剤の適正管理の徹底	○	継続	溶剤の適正管理をチェックシートで実施した。
水使用量の削減			
数値目標	101%	93%	基準年度比7%減
・ホースに手元バルブをつけて流し落ち防止	○	継続	本社工場の使用量が前期よりも減少。新社屋にも最新型節水トイレを3台設置。
・節水タイプのトイレに更新 本社1、2F	○	継続	
・水漏れ確認	○	継続	
グリーン購入			
数値目標	92%	13品目	
・品目数の向上	△	継続	11品目を購入。目標到達に向けてさらにエコ商品の導入を進めます。
製品への環境配慮			
数値目標	72%	77型	
・独自の樹脂製金型技術で型のリサイクル	○	継続	樹脂プレス型の発注が大幅に数量減少し未達となりました。引き続きリサイクル製品のPRを行う。
・省エネ型の新工法成型機・成型型の拡販	×	継続	
・省エネ設計・省エネ機器の採用	×	継続	
社会貢献			
・会社周辺の清掃活動	○	継続	毎朝工場周辺の清掃・緑化エリアへの散水を継続実施する。高架下の鳩フン害対策に効果があった。
・工場の緑化推進	○	継続	

□法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理委託
騒音規制法、振動規制法	空圧機、(7.5KW空気圧縮機3基 設置届け申請受理済 2012/8/23)
フロン排出抑制法	業務用空調機、エアドライヤの廃棄時適正処理、簡易点検
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃棄時リサイクル
Nox・PM法	トラック、バンの排気ガス規制
大阪府条例	トラック、バンの流入車規制
家電リサイクル法	テレビ、冷蔵庫等のリサイクル
消防法	少量危険物貯蔵の届け出

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

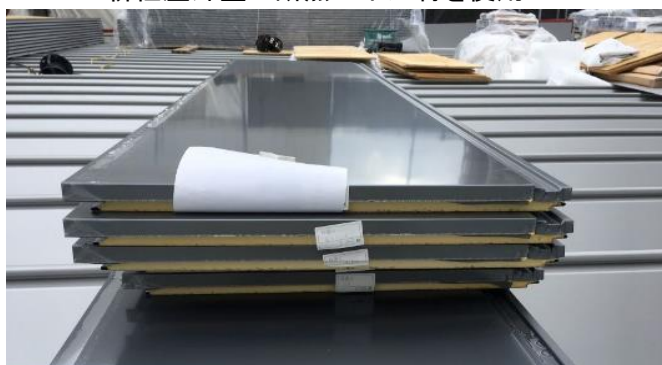
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

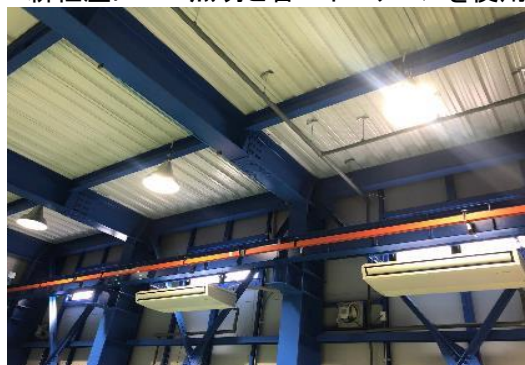
今期通年度7期目の活動を実施し、結果を確認しました。今期は売上げが前期の0.75倍と落ち込んだこともあり機械の稼働率が低下しました。しかし受注のばらつきが多く、前年同様温度管理が必要な極寒期と夏場に受注が固まっていたこともありエアコンの稼働率は引き続き高い状況でした。売上げに比例した電力使用量削減とはなりませんでしたが、原単位基準年度比では10%減となりました。その他のテーマについても環境配慮型商品等の一部を除くすべての目標をクリアしております。前期から継続して活動を行った成果が出ていると考えています。来期に向けてさらに社員一丸となり目標意識を持って取り組みたいと考えています。19年6月には新工場を竣工し、断熱効果の高い外壁材・屋根材や省エネエアコンを採用するなど効率的な温度管理ができる環境を整えることが出来ました。今後の受注傾向は変わらず温度管理を必要とする高精度な大型プレス型や大型金属ロールが継続的に続く予定です。新工場の整備された環境とこれまでの活動を継続することで来期以降も目標達成が出来るよう取り組んでまいります。

代表取締役社長 三木 繁親

新社屋外壁に断熱パネル材を使用



新社屋にLED照明と省エネエアコンを使用



新規導入のマシニングセンタ



周辺環境に対する騒音対策

